

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070400526		
法人名	医療法人あづま会		
事業所名	グループホームおおいど		
所在地	伊勢崎市上諏訪町1766-8		
自己評価作成日	平成25年7月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構
所在地	前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成25年9月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が認知症を専門とした医療機関であるため、ご希望があれば、最期までグループホームで生活していただくことができます。
また、母体である大井戸診療所にかかっている精神疾患者の社会復帰のための支援を行なっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者である認知症専門医の下で認知症ケアの多くの工夫があり、最も困難な方でも受け入れ、安心して生活して頂くための技術とマンパワーを有している。利用者一人ひとりの特性に添う支援を基本とし、家族との距離をなくし、利用者の目線で大家族のように暮らしている。元気だった頃のその人それぞれの暮らし方を受容し、ここで再現するという目標に向かって職員が皆で努力し、工夫している。医療面では看護師を複数人配置し、24時間医療連携体制をとっている。終末期の対応では家族が希望すれば看取りも可能である。今年は法人の創立25周年の記念の年である。地域の中で認知症に関する相談拠点の役割を再認識すると同時に、認知症ケアや終末期ケア・摂食や嚥下の学習会を開催するなど法人の力を活かした地域貢献を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとして、新たに皆で理念を考え、実現に向けて努力しています。	個人を大切にし、その人らしく生活できる環境作りや残存能力の維持・向上を目指すという従来の理念に、地域密着型サービスの役割を意識した理念を作り上げ、実現に向けて努力している。震災復興バザーを開催し、地域の方に来ていただいた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の「道普請」(道路清掃)への参加を行っている。	今年は、医療法人を創立して25周年目の年である。認知症に関する相談拠点としての役割を果たすと共に、地域の人に役立つ医療や福祉に関する勉強会も開催している。地域の役に立てる「法人新聞」の発行を、計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加していただいている方々に対し医療や福祉に関する情報提供を行なっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でいただいた意見は、ホームの運営に活かしています。最近では、地域との関わりについて、防犯のための協力について話し合いました。	家族全員が構成員になっている。会議は、事業所の状況報告後に意見交換が行われている。長崎のグループホーム火災について話し合い、緊急連絡網に区長・民生委員を追加した。会議時にはアンケート用紙を渡して、意見をいただいている。	会議に参加できないメンバーに議事録を配布するなど、会議内容を周知すると共に、次回の参加につながるような取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市の職員が必ず参加してくれています。また、事故報告を行う際に、アドバイスなどもいただいています。	居室が空いた際には、市に知らせている。災害時の施設間の連携づくりに市が中心となり、台風や地震後には市から安否の確認がある等、協力関係は良好に保たれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当法人は全体で「身体高速廃止」を宣言しています。また、玄関についてはアラームを設置し、いつでも自由に入出りできるようになっています。	法人の方針として、身体拘束等行動を制限する行為を禁止している。点滴時には職員や家族が付き添って手を握り、安心して頂いている。今年、居室の掃き出し窓から外に出て怪我をした事例があったため、掃き出し窓の開きに制限を加えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、職員全員が「してはいけないこと」という認識でいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個別に、必要に応じて職員には説明しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前後でも、グループホームについての質問は随時受け付けています。また、改定の際には説明会を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	当ホーム以外にも、苦情や相談窓口があることを契約時に説明しています。また、運営推進会議の際に、意見等を言ってもらう時間を作っている。	毎日の献立作りには、レシピ集を見ながら利用者也参加している。「思いを叶えるためのお手伝いをします」と家族に宣言し、意見・要望を言い易い関係を築いたり、運営推進会議時にアンケートを書いていただき運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、法人内の各部署の代表者が集まり、運営についての会議を行なっています。	法人の全体会議及びホームの職員会議を、毎月1回ずつ開催している。法人会議では各部署の課題を提出し、職員会議では処遇や行事などについての意見を出し合っている。家族との旅行や思いの実現支援など、職員間で相談し実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度の導入など、職員のやりがいと労働条件・環境の整備に努力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で行われる研修の他、希望する研修に参加できる仕組みがあります。また、今年度OFFJTとして、看取りケアの振り返り等の研修会を企画し職員が参加しました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	群馬県地域密着型サービス連絡協議会の活動を通じ、他のグループホームとの交流の機会を設けています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の状態にあわせ、最初は「通い」の形から始めた事例もあります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話をよく伺いながら、良い関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用については、担当する介護支援専門員とよく話し合っています。必要に応じ、通い形式や外泊を組み込むなどして対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お年寄りから「教わる」ということを意識し、共に支えあう関係を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあったときには、まずご家族に相談という形をとり、介護に参加していただいています。また、受診の際にはご家族に協力いただき、主治医よりご本人の健康状態や認知症の状態を直接聞くことができるように配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、親戚などが気軽にホームに遊びに来ていただけるよう、ご家族にはお話をしています。また、級友に合うための援助や自宅で過ごすための援助等行なっている。	利用者の「家に帰りたい」という気持ちにより添って、職員が複数回同行して自宅で過ごしていただいたり、エステサロンに通っていたが行けなくなった時に馴染みの美容師の訪問が受けられるように連絡・調整したりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室で独りで過ごす時間も大事であると考えながらも、ずっとひとりぼっちになってしまうことがないように、適宜声掛けを行い、居間に出てきていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他サービスに移られた場合などは、必要に応じ、施設や病院に様子を見に行っています。 最近ではホームで看取った事例も多くなり、退所後もご家族のところへ訪問するなどしています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人が自分の想いを伝えられない時には、ご家族からお話を伺い、なるべくその意向にそえるように援助しています。	どのような状態になっても、その人らしい生活が送れるようにサポートすることに努め、希望の表出が困難な方には、「はい」「いいえ」で答えられる質問の仕方を心がけている。また、発語の癖等を把握して、気持ちを汲み取れるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回の面接時以降でも、ご家族より昔のご本人のことについてのお話をききだすようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、バイタルチェックを行い、その後の朝の申し送り時に意見交換を行なっています。また、夕方の申し送り時に日中の過ごし方や様子についての情報を皆で共有するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成に当たっては、連絡の取りづらいうご家族にも手紙等でやりとりして意見も取り入れられるようにしています。	1人の職員が利用者1人を担当し、来訪時以外にも電話・手紙・メールで家族と連絡を取り合い、意見を聴取している。担当職員がアセスメントし、家族や職員の意見を取り入れて、ケアマネージャーが介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別の記録及び日報に記入されていることを中心に申し送りをを行い、日々の介護に役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じ、個別の買い物、医療機関への受診、外出、入退院の援助など行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当ホームでは、毎日食材の買い物に出かけることになっており、買い物に参加できる方については、買い物に出かけていただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人が受診する際には、主治医に対し、ご本人の生活ぶりや健康状態について連絡しています。	利用者全員が、法人代表が開業する診療所をかかりつけ医としている。通院可能な利用者は家族が同行し医師から説明を受け、通院できない人は訪問診療を受けている。職員として看護師を配置し、24時間医療連携体制が確保されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な健康相談の他、入居者の状態については毎日夕方には、1日の皆さんの様子の申し送りを行なっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関にはホームからの情報提供を行い、必要に応じ、カンファレンスに参加しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師から助言をもらいながら、必要に応じて主治医やご家族と話し合いをしています。	入居時に、看取りが可能であるというホームの方針を説明している。終末期に近づいた時には医師から病状を説明し、家族の意向に添って入院または看取りを行っている。職員は誠心誠意を尽くし、家族に対しても後悔が残らないように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は交代で応急手当講習会当に参加しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間2回訓練のうち、1回は夜間の火災を想定した訓練を行っている。 緊急時の連絡網に、地域の代表の方々を加えることになりました。	前回の評価結果を受けて、地域住民との協力体制を検討し、区長・民生委員を緊急時の連絡網に追加・避難後の利用者の見守りを役割として依頼した。近所に住む職員が駆けつけることを含めても夜間災害への対策は、課題であると考えている。	前回の評価結果を受けて作成した「目標達成計画」にある地域住民への防災訓練への案内及び参加依頼が未着手であるので、再度検討することを期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本は敬語で、ご本人と介護者の関係を十分に考えながら声かけするように指導しています。 名前の呼び方については、ご本人に確認しながら職員それぞれの関係で行っている。	個人情報の取り扱いについて、法人全体で勉強会を行っている。話しかけ方や言葉遣いは、利用者との関係性のなかで適切に行い、利用者がよく口にする言葉を大切にし、本人の心の安静を優先した言葉かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	当グループホームの一日は「今夜は何を食べましょう？」と入居者の方々と献立を立てるところから始まります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の方々の生活する時間について、特に職員の方で制限してしまうことはありません。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服については、ホーム側の都合で用意するのではなく、ご家族の方に選んでいただくことを基本としています。 理美容については、ご家族(ご本人)の希望で、行きつけの美容室に通い続けている人もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園の野菜を収穫するところから、入居者の方々の能力や関係を考えながら食事に関する様々な作業にも参加していただいています。	朝のうちに今日食べたい物を利用者に相談し、午後食材の買い出しに利用者とは出かけている。野菜の収穫・野菜切り・米とぎ・味付けなどの作業にも参加してもらっている。うどん打ちや鉄釜での炊飯は、利用者に先生になってもらう機会作りとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	当ホームでの献立作りにおいては「普通の家庭」という感覚で行っており、栄養計算等はされていません。そのため、毎週1回、体重測定を行い、目安としています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後はその人に応じた口腔ケアを行なっています。 また、必要に応じ、法人内の口腔嚥下チームの指導を受け、ケアをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成し、入居者毎の排泄状況の把握に努めています。	「排泄表」を声かけ・誘導の目安として支援し、失禁する前に排泄できる方が徐々に増えている。失禁の多い方には誘導時間を見直し、トイレの場所がわからない方には居室やホールからの経路を明示している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく水分を摂るように心がける、なるべく身体を動かすといった以外に特別なことは行なっていません。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	概ね1日おきに入浴ができるように声掛けを行なっています。 無理強いせず、ゆったり入ってもらうことを心掛けています。	浴室を改装して広々としたスペースを確保し、大きな窓を設置した。家庭的な浴室で、10時～16時の間に本人が希望する時間に入浴できる。入浴の誘いをして納得が得られた場合のみとし、午前中に拒否された方を午後、再度誘っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	独りが不安な人については、居間で眠っていただくこともあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	専用のファイルに薬局からもらう用紙を綴って、薬の傍に置いています。また、内服薬に変更があった場合には、申し送りをしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご希望により、飲酒していただくこともできます。また、個別の外出援助を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	最近では、集団での外出の他に、個別活動として旧友に会いに行く、今まで生活していた家に、家族で集うための援助を行いました。	代表者が、外出を勧めている。赤城山へのドライブをしたり、昔ながらの八百屋でおしゃべりしたり、女子会で美味しいものを食べたりと、その日の気分外出を楽しんでいる。個別には、旧友に会いに施設を訪問したり、墓参り・買い物・家族との日帰り旅行を支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が紛失して構わない額であれば、ご本人に管理して頂くこともあります。また、ご本人が管理しきれない場合であれば、職員が管理させていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使っていただけることになっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や各居室の廊下からは、中庭が見渡せるようになっています。 現在は、日差し対策のため、遮光ネットなどを利用している。	共用スペースは、幸せを象徴する黄色を基調色とし、ホールや廊下の壁・ソファなどを黄色で統一している。大きな窓や天窓・掃き出しのガラス戸があり、開放感がある。法人のデイサービスと回廊式廊下で繋がっているの で、利用者は日頃から行ったり来たりしている。玄関先には犬を飼っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には、食事ができる場所のほか、ソファやテーブルがあり、入居者の方々に自由にさせていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新規入居時には、仏壇やタンスなど、なるべく自宅で使用していた馴染みのものを持ってきていただくように声掛けしています。	エアコン・ベット・クローゼット・洗面台が設置され、それ以外は好みの衣類や使い馴れた生活品・家具などを持参している。家族の写真や絵・書・元気だった頃に作った模型などで彩られ、本人の生活史や人柄が伺える居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人の状態を見極め、自分の出来ることはなるべくご本人に行なっていただいています。		